

シモギョーミーツ

SHIMOGYO MEETS



TOPICS

実践報告

サービス付き高齢者住宅が
みんなの居場所に

対談

人とヒトとの交差点
子ども食堂へようこそ!

シモギョーミーツ

SHIMOGYO MEETS



TOPICS

高齢者施設で開催する「居場所」を
地域づくりの拠点に

かつて貧困対策と言われた
子ども食堂の「今」

高齢者施設で開催する「居場所」を 地域づくりの拠点に

●なぜ、今「居場所」が必要なの??

「居場所」という言葉は一般的には「人がいるところ」という物理的な場所を指しますが、「身を落ち着けていられる場所」などの心理的な意味もあります。
また、居場所で人と交わることにより、人との絆が生まれ、様々な形の助け合い(共助)に発展し、そこで形成された人間関係は助け合いだけではなく、広く社会の利益(公益)を生み出します。
出典:公益財団法人さわやか福祉財団HP「居場所の効果」より

近年、少子高齢化や核家族化による家族関係の希薄化、また生活スタイルの多様化やコロナ禍での地域行事の減少により、人や地域との関わりを持たない人が増えてきています。こうした状況を背景に、社会的孤立・孤独、地域力の低下などの社会問題が顕在化しています。
一方で、福祉や防災、教育などの様々な分野において、改めて地域コミュニティの必要性が高まっていますが、地域コミュニティの再生や維持は、もはや自然発生的な人々の行為に委ねるだけでは困難になっており、意識的な仕掛けやつながりづくりが必要となっているのが現状です。
そのようななか、つながりづくりのひとつの手段として、下京区内では地域の中にある高齢者施設等を拠点とした「居場所」づくりが進められています。



下京区社協キャラクター
しもりゅうくん

●なぜ、高齢者施設で「居場所」活動をするの??

年をとっても住み慣れた地域のなかで、自分らしく暮らし続けるための「地域包括ケアシステム」において、高齢者施設は重要な役割を担っています。
高齢者施設が高齢者のみならず、障害者や子どもといった分野を超え、地域に開けた施設となり、更に、高齢者に携わる人たちが地域の人々との交流を深めるとともに、地域のさまざまな人々が高齢者施設に出入りすることで、施設を知り、お互いを理解し合うことができます。
それは本来、多様な人がありのままを認め合って、助け合って暮らしていた地域のあり方を取り戻すことにも繋がるのではないのでしょうか。



下京区社協
キャラクター
かもがわさん

地域包括ケアシステムってのはな

高齢者一人ひとりが、できる限り住み慣れた地域での生活を継続できるよう、京都市内全域をカバーする高齢サポート(地域包括支援センター)を中核として、日常生活圏域において、医療・介護をはじめとする様々な関係機関が連携を進めることで、地域住民、関係機関、行政が一体となり、地域ぐるみで多様なニーズを持つ高齢者の暮らしを支援する仕組みのことやで!

子ども食堂は子ども「だけ」の食堂? 私は行っていいの?

かつて貧困対策と言われた 子ども食堂の「今」



●子ども食堂は貧困対策??

子ども食堂:子どもが一人でも行くことのできる無料または低額の食堂

2013年に子どもの貧困対策推進法が成立してから、子どもの貧困に対する社会的注目は高まっていっていき、それとあわせて「子ども食堂」が新聞など報道で取り上げられるようになっていきました。
子ども食堂の名前は急速に広まる一方で、「子ども食堂=貧困」のイメージも同時に広まっています。そのイメージは今なお根強く、「子ども食堂は、貧困家庭の子どもを集めて食事させるところ」「経済的に厳しい家庭の、食べられない子が行く場所」という声を耳にすることもあります。



地域の交流の場でも
あるんじゃないかな?

●誰にとっての「子ども食堂」??

子ども食堂には大きく分けて2つの形があります。1つは「交流の場」としての形です。対象を限定せず、子どもも大人も、貧困状態であってもなくても、様々な人が出合い、ふれあうことを目的としています。少子高齢化、家族形態や雇用形態の変化に伴い、孤独孤立の問題がクローズアップされる中で、希薄化した人と人とのつながりを結びなおすオープンな場となっています。
もう1つは「支援の場」としての形です。貧困の状態にある子ども等に対象を限定し、その課題解決を目指すことを目的としています。「交流の場」と比較して、より子どものプライバシー保護が優先され、専門性の高い対応が行われるクローズな場となっています。
この2つの子ども食堂の形は、それぞれ子どもの居場所として重要な役割を果たしています。子ども食堂のイメージとして広がっているのは「支援の場」としての形ですが、実際の子ども食堂は、貧困かどうかに関係なく、子どもであっても大人であっても、すべての人に開かれた「交流の場」でもあるのです。

お兄さん、お姉さんが
遊んでくれて楽しい!



みんなで
たべると
おいしいな。



広がり続ける子ども食堂

2016年の時点で、全国に約300ヶ所だったのが、2022年には23倍の約7,000ヶ所にまで増加しています。京都市内では、子ども食堂を含む子どもの居場所の数は150ヶ所にのぼり、ボランティア、NPO、企業等様々な方が運営されています。子ども食堂について「行ってみたい」「知りたい」という方は、ホームページまたは京都市・各区社会福祉協議会までお問い合わせください。



子どもの居場所づくり
「支援の輪」サポート事業

じぞくかのう ちいきふくしかつどう 実践中!

タテヨコナメプロジェクト



植物をツールとして
“人とのつながり”を自然な形で
ゆるやかに創っています。



オープンカフェ

ハーブティーを飲みながら、
植物を愛でる居場所です。

開催日 毎週水曜日
場所 下京総合福祉センター 3階テラス
実施主体 / Green thumb(グリーンサム)
※ボランティア入門講座修了生のグループです。



その方に寄り添い、想いに耳を傾け、
心豊かな時間を共に過ごしています。



傾聴ボランティア

地域支え合い活動入門講座
「傾聴ボランティア養成講座」
修了生による傾聴活動を行う
ボランティアです。

場所 インクル、
高齢者施設(ココファン烏丸東)など

寄付するだけでなく、
その後の交流が
生まれています!



下京Reぼん

寄贈いただいた本を通して、
寄贈者と読者が交流する事業です。

場所 下京総合福祉センター

毎月様々なプログラムを実施しています!
参加者も含め、みんなで作る居場所です。

インクル

地域で暮らす様々な方が、それぞれの立場を超えてつながることができる場所の提供、とりわけ「社会的孤立」等の状態にある方々が、自分のペースで社会参加、交流できる居場所です。

開催日 通常開催 毎月第4金曜日
※不定期にイベントも実施しています。

場所 京都市中央保護所(休止中)2階



「タテヨコナメプロジェクト」って??

これまでの地域は、縦、横のつながりはありましたが、同じ職種、分野でのつながりでした。本プロジェクトでは、**多様な人、多様な立場の人が地域でタテヨコナメにつながる**ことを目的に実施しています。地域をナナメに繋げていき、持続可能な地域福祉活動を模索します。新たな地域福祉活動の展開を目指し、地域をタテヨコナメにつなぐことを意識して、試行的に、下京区地域福祉推進委員会と事務局を中心に検討、実践しています。



実際に店頭に並んでいた商品を
寄贈していただいています。
生鮮食品以外、揃っています!

Food&Goods de♡Market

セブンイレブンから寄贈された商品を必要とする家庭に、
必要な物をご自身で選んでいただくMarketです。
お渡しする際に、アンケートの回答をお願いしています。

開催日 不定期 ※Instagramで周知しています



オープンカフェで育てたハーブを
活用して、足湯を実施しています。

サロンde足湯

足湯のある居場所です。

開催日 不定期 ※Instagramやチラシを配布しています

場所 下京老人デイサービスセンター
実施主体 / 下京老人デイサービスセンター
下京ケアプランセンター
下京老人福祉センター
下京区社会福祉協議会

子ども向けの
“お菓子で防災を考える講座”や
“食”を通して防災を考えています!

まなぼうさい!

防災について
学ぶ講座をしています。

開催日 不定期
実施主体 /
下京区災害ボランティアセンター



今後も、ゲームができる居場所や
物々交換できる居場所、モルック、
小中学生が福祉に出会える場づくりなど…
たくさん計画してるから
楽しみにしててな!

活動の開催日や詳細を
Instagramで発信しています。
フォローしてぜひご覧ください!



サービス付き高齢者住宅が みんなの居場所に

高齢者の生活を支えるプロたちがいる介護施設は、お年寄りだけでなく、みんなが暮らしやすい地域をつくるうえで大きな役割を果たすことができるのではないのでしょうか。高齢者介護施設である「サービス付き高齢者住宅」で居場所づくりに関わる人たちからお話を伺うと、地域づくりのヒントが見えてきました。

赤ちゃんから高齢者まで、多世代が支え合いながら地域の中で安心して暮らし続けられるまちづくりを進めています。「お楽しみサロン」で地域の方とご入居者様が関わり合う中で、居場所があるという特別な「生きがい」に繋がっています。地域の方にも「高齢者住宅」を知ってもらえるきっかけになってほしいです。



ココファン烏丸東
竹本 所長代理

地域のボランティアと施設入居者の方が一緒に楽しめる企画を考えています。このような取組みが他の施設にも広がってほしいです。



豊園シルバークラブ
万木 副会長

「今日のコーヒー、美味しかったです!」この言葉がやりがいです。みんなが緩やかに繋がっている。このような場が広がっていけば、孤立や孤独を防げるのではないのでしょうか。



下京男塾
岸田 塾長

傾聴サロン

@ココファン烏丸東

毎月1回、地域支え合い活動入門講座「傾聴ボランティア養成講座」修了生による「傾聴サロン」を開催! 寄り添い、想いに耳を傾け、心豊かな時間を共に過ごしています。



こんな取組みも
始まってます!



お楽しみサロン @ココファン烏丸東

不定期で開催されている地域のサロンです。地域のボランティアや施設職員、就労継続支援事業所の職員や利用者さん、そして地域住民と入居者の方、みんなで創る居場所です。

「サロンに立ち寄ってお喋りしてみようかな」、「ワークショップに参加してみよう!」など、地域の方が高齢者施設を気軽にのぞくことができ、様々な人が交流できる場として定着すれば良いなあと思っています。おひとりでも過ごされている方も、話しかけると、少しずつ話してくださいました。ゆっくり、気長に、寄り添っていかれたらと思っています。



ボランティア
久武氏
関本氏
宮川氏

事業所で作ったお菓子を販売しています。何気ないやり取りを通して、地域に障害者理解が広がる良い機会です。当日は地域のボランティアグループ「Green thumb (P4~5参照)」が育てられたハーブを使ったお菓子もあり、様々な「つながり」が生まれています。地域と施設との顔の見える関係が広がり、災害時にも活きるとありがたく感じています。



就労継続支援
B型事業所
ジョイント・ほっと
山本 所長



傾聴サロン
ボランティアの
みなさん

対談 すずらん子ども食堂 木村代表 × Niji café 子ども食堂 藤井代表

人とヒトとの交差点 子ども食堂へ ようこそ!

全国的に広がり続けている子ども食堂。今回は下京区内で子ども食堂に取組まれるお二人に、お話を伺いました!



すずらん
子ども食堂
木村 代表

Niji café
子ども食堂
藤井 代表

子ども食堂を 始めたきっかけ

木村さん 児童館の職員をしていた時に聞いた、「家に帰っても、夜の8時まで親が帰ってこない」「土日も親が仕事で忙しく、一人で遊んだり、ご飯を食べたりしている」「寂しいけど、親も大変だからそれが言えない」という子どもたちの声がきっかけになりました。地域の方にもご協力いただき、孤食にアプローチする目的でスタートしました。

藤井さん 障害のある方の就労サポートを行う中で、障害に気を遣うがゆえに、「障害のある人と、そうじゃない人」に別れてしまう現状があると感じていました。でも「障害」を見るのではなく、その「人」を見られるようにしたい。そう思って、子どもや大人が、障害のある、なしに関係なく自然と関われる場所をつくろうとしたことがきっかけです。

子育て世帯の 想いに寄り添う

藤井さん 親子連れで参加される方が多いのですが、子育てしながら働くことの大変さや日々のいろんな気持ちを吐き出せる場所にもなれたらと思っています。「最近顔見えへんかったけど、こっちは聞くだけなんですけど、それで親御さんが笑顔だったら子どもも安心できるかなって思います。」

木村さん 親御さんの吐き出し場所が意外とないなと思いますね。核家族や共働きが増え、仕事して、家事して、育児して、親が息抜く暇がない。息抜こうとしたら周りから非難される、そういう社会が問題だとも思います。子ども食堂は、親がほっと一息つける居場所としても、求められているのだと思います。

子ども食堂で 大切にしていること

木村さん 怒られたり、ダメと言われて育ってきて、大人は怒るものだと思っている子どももいて、「ダメって言わなかったらよかったら」と言われたことがあります。ここでは、もっと自分を出していいんだよって、伝えることは意識していますね。

藤井さん 子どもから見たら大人って背も大きいし、ちゃんとしているように見えていると思うんです。でも大人も人間ですし、色々失敗がちな人です。色々と失敗がちな人です。色々と失敗がちな人です。色々と失敗がちな人です。

子ども食堂へ 来てください!

木村さん 「子ども食堂」ですけど、子どもだけというよりは色々な世代が交流できる、出会える居場所っていうイメージです。寂しいからじゃなくて、楽しいからここに来る。そういう居場所に、子ども食堂全体がなってほしいと思います。

藤井さん 「困ってる」「困ってない」とか関係なく、いろんな人が来て、混ざっていいかなと思うんです。線引きがあって、こういう人じゃないと行けない居場所みたいなイメージは外れていけばいいなと思います。子ども食堂みたいな居場所が人と人との接点になれたらいいですね。

ぜひ気軽に
お越しください!



Niji café 子ども食堂
運営団体
NPO法人
クリエイター育成協会
公式Facebook



すずらん子ども食堂
運営団体
NPO法人
コミュニティ・スペース sacula
公式LINE

